アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　「年月を越えて」

この春から再び南宇和剣道会に籍を置いた。高校を卒業して以来やから二十数年ぶりになる。そして先日、学生時代にお世話になった先生方と食事をする機会に恵まれた。あの頃の記憶が蘇る。毎日の稽古はとても厳しかったけど、辞めようと思ったことは一度もなかった。ズル休みも仮病も使ったけど、笑。そして、あたしよりも鮮明に当時のことを記憶している先生方に驚いた。あの大会のあの試合でお前はどこそこの誰やろと対戦して、お前はメンをとって、それから…って。そんなことあたしは覚えとらん!!笑

ただ、それだけ一人一人と向き合ってくれてたんやと実感した。嬉しかった。大切に育ててもらった。どの地域もどのスポーツも同じやけど、少子化が進み剣道会の子どもたちもだいぶ減った。人数が少ないとなかなか士気も上がらんもんやけど、それでも昔と同じように一人一人と向き合い熱心に指導を続けてくださる先生方に心から感謝したい。

先生方の想いは年月を越えて伝わる。大人になり、あたしが今でも恩師を想うように。　（テノヒラkiku）

あいなん逸品図鑑 その⑬

逸品図鑑「イサキ」

愛媛CATV動画

一本釣り漁師　山本 美紀雄（みきお）さん(船越)

▲定年退職後にイサキ釣りを始めた山本美紀雄さん。漁師になって約12年が経ちます。

西海地域でイサキの一本釣りをしている山本美紀雄（みきお）さん。商工会を定年退職後、趣味で続けてきた船釣りの経験を活かして一本釣り漁師に転身し、今では海況が良い日には毎日のように出漁しています。

この時期は午前４時過ぎに船越を出港し、40分ほどかけて漁場に移動します。海の状況によりますが、お昼前後まで釣りを続けます。「天候が急変することがあるし、しけたときは大変」と語るように、海の仕事ならではの苦労は絶えません。

イサキ釣りは基本的に通年で行いますが、盛漁期は６月から７月にかけての産卵期で、その時期は特によく釣れると言います。山本さんのおすすめの食べ方は刺し身ですが、「塩焼きでも煮付けでも、イサキはどんな料理でも美味しい」と強調し、「これからも健康に気を付け、できるだけ長く釣りを続けていきたい」と話しました。

▲脂が乗ったイサキ。魚体は300gほどが中心ですが、中には500gを超えるものも。